

京野菜等の微小害虫の被害を軽減する 新型赤色系防虫ネットの開発 (農林センター)

野菜等の栽培において農薬が効かない微小害虫に対しては、防虫ネットが有効です。本研究では、**新型赤色系防虫ネットで畝やほ場を囲むことにより、害虫の侵入抑制効果が高いことを明らかにしました。** 今後は、作成した技術マニュアルを活用し、環境にやさしい防除方法の普及を通じ、**九条ネギなど京野菜の安定生産に寄与します。**

背景

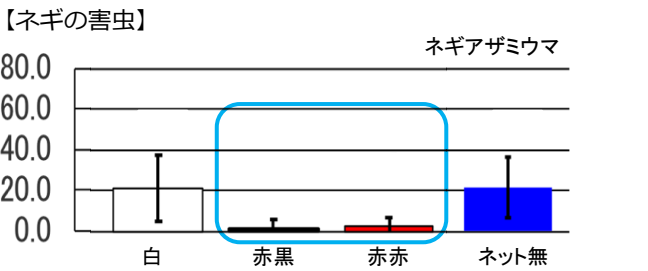
- 農薬が効かない微小害虫の出現が大きな問題
- 野菜等の生産者から、農薬に頼らない新しい防除技術の開発要望

課題等

- ネット等を活用した、農薬に頼らない微小害虫の防除法の確立
- 防虫ネットによる微小害虫被害軽減効果の違いの解明

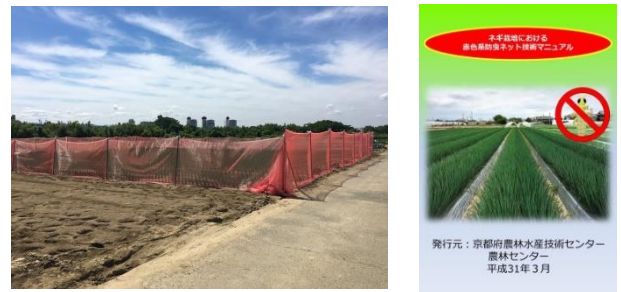
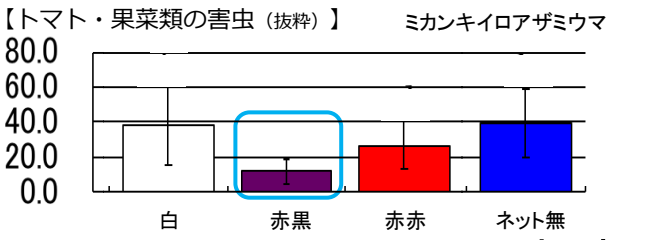
赤色系防虫ネットで侵入抑制効果が高い

赤色系防虫ネットを導入することで農薬防除回数を削減



	農薬散布回数
慣行区 (ネット無し)	10 回/作
試験区 (赤色系防虫ネット使用)	7.5 回/作

露地栽培で圃場を囲み侵入抑制技術マニュアルを作成し普及



研究成果 赤黒ネット(新型) 赤赤ネット(新型)

- 野菜等の難防除微小害虫被害は、赤色系防虫ネットで軽減できることを解明
- 企業と連携して新型赤色系防虫ネット(赤赤及び赤黒タイプ)を開発し、活用のための技術マニュアルを作成
- ネギの農薬防除回数を25%削減可能

■現状

- 微小害虫に対して有効な殺虫剤が減少(登録薬剤の3分の1以下)。
- 微小害虫が媒介するウイルス病の発生(ネギ栽培面積の約9割)
- 食害・発病株の選別作業の労働負担の増加。

■技術導入後

- 防除回数を約25%削減。
- ウイルス病(ネギえそ条斑病)の発生を約3分の1以下に抑制し、選別調整の労働負担を大幅改善。

今後の展開

新型赤色系防虫ネットは、既に販売が開始され、府内のネギ、トウガラシ、トマト栽培等で導入が始まっています。今後は、普及センターと協力し、現地への更なる普及を図ります。

※本研究は、総合科学技術・イノベーション会議のSIP(戦略的イノベーション創造プログラム)「次世代農林水産業創造技術」(管理人:農研機構生物系特定産業技術研究支援センター)の支援を受けて行いました。